

令和元年度 一般会計決算附属資料

消防本部 主要な施策の成果

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 13,209千円	最終予算額 13,619千円	不用額 410千円	執行率 96.9 % (参考)当初予算額 13,340千円	部 消防本部
	項	01 消防費					
	目	01 常備消防費					
	事	02 消防本部総務業務					
	細事	01 消防本部総務業務					
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源				
目的	消防業務の企画、調整、施設の管理及び職員の被服等貸与並びに安全衛生管理等を行い、円滑な業務遂行を図る。						
主要な事務・事業の概要	<p>消防長会、府立消防学校、消防・防災関連会議等への出席、制服等職員貸与品の購入、事務用品、コピー代、電話代等の支払い事務を行った。</p> <p>消防活動時の安全管理の基本となる防火服等のうち、損耗の著しいものについて更新を行った。</p> <p>※消防吏員99人（うち女性1人、京都府立消防学校派遣教官1人） （令和2年3月末現在）</p> <p>○旅費 450千円 ・消防長会、消防学校、京都府主催会議等</p> <p>○消耗品費 4,032千円 ・現任職員貸与被服等購入費（制服、活動服、救助服等） 1,331千円 ・令和2年度新規採用職員貸与被服等購入費（制服等） 947千円 ・法令関係図書、事務用品、コピー代等 1,754千円</p> <p>○通信運搬費 1,310千円 ・電話料金、郵便料金、久美浜有線放送料金等</p> <p>○肝炎ウィルス検診委託料 64千円 （令和元年度新規採用職員3人、追加接種1人）</p>			<p>○職員健康診断委託料等 1,058千円 ・潜水業務健康診断（12人） ・C型肝炎抗体検査（87人） ・労働安全衛生法に基づく消防職員第2回健康診断（交代勤務者76人） ・救急救命士病院研修に係る感染症ワクチン接種（22人） ・救急救命士就業前病院研修に係る感染症ワクチン接種（2人）</p> <p>○コピー機借上料、印刷機借上料、テレビ受信料等 590千円</p> <p>○備品購入費（防火服上下、防火帽、防火長靴等） 5,018千円</p> <p>○全国消防長会等負担金等 366千円</p> <p>○その他事務経費等 321千円</p>			
					成果・課題	<p>○事務用品、消耗品等の発注を消防本部総務課で一括して行うなど、経費の削減を行った。</p> <p>○24時間体制での運用が必要な常備消防活動を維持するため、引き続き消防職員の健康管理及び安全管理を適切に行う必要がある。</p>	

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 1,372千円	最終予算額 1,425千円	不用額 53千円	執行率	部 消防本部																									
	項	01 消防費				96.2 %																										
	目	01 常備消防費				(参考)当初予算額																										
	事	03 消防訓練・研修業務				1,425千円																										
	課	01 救急救命士養成業務																														
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源																													
目的	市民の安心安全な生活に寄与するため、医師の指示の下、救急車内等で救命処置ができる救急救命士の計画的な養成に加え、気管挿管が可能な救急救命士の養成を行う。																															
主要な事務・事業の概要	<p>救急救命士として救急業務を行うために必要となる就業前病院研修に新規資格取得者2人を派遣するとともに、気管挿管を行える救急救命士の認定に必要な病院実習に1人を派遣した。</p> <p>また、指導救命士養成研修（質の担保された救急業務を維持するための指導者）に1人を派遣した。</p>		<p>【参考】</p> <p>○救急救命士数（令和2年3月末現在 運用列：うち女性1名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>運用</th> <th>運用以外</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急救命士数</td> <td>21</td> <td>8</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>指導救命士</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">認定状況</td> <td>気管挿管認定</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>薬剤投与認定</td> <td>21</td> <td>8</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>処置拡大認定（心肺停止前静脈路確保、血糖測定、ブドウ糖投与）</td> <td>21</td> <td>4</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度救急件数：2,455件、搬送人員：2,321人</p>						運用	運用以外	合計	救急救命士数	21	8	29	指導救命士	2	1	3	認定状況	気管挿管認定	12	4	16	薬剤投与認定	21	8	29	処置拡大認定（心肺停止前静脈路確保、血糖測定、ブドウ糖投与）	21	4	25
		運用	運用以外	合計																												
	救急救命士数	21	8	29																												
	指導救命士	2	1	3																												
	認定状況	気管挿管認定	12	4	16																											
薬剤投与認定		21	8	29																												
処置拡大認定（心肺停止前静脈路確保、血糖測定、ブドウ糖投与）		21	4	25																												
○旅費	128千円																															
<ul style="list-style-type: none"> 指導救命士養成派遣旅費（救急救命九州研修所：1人） 																																
○職員研修委託料	620千円																															
<ul style="list-style-type: none"> 現任救命士病院研修委託料（21人） 420千円 救急救命士資格取得後就業前病院研修（2人） 200千円 																																
○救急救命士養成負担金等	624千円																															
<ul style="list-style-type: none"> 気管挿管病院実習（丹後中央病院：1人） 300千円 指導救命士新規養成研修費（救急救命九州研修所：1人） 324千円 																																
成果・課題	<p>○救急救命士による救命処置により、市民の安心安全な生活に寄与できた。</p> <p>○市民の生命を守るための救急救命士の継続養成は不可欠であり、今後も計画的に養成を行っていく必要がある。また、気管挿管など、より高度な救命処置を行うことのできる救急救命士の養成も必要である。</p> <p>○救急業務全般の質の向上のため、教育指導体制の充実及びメディカルコントロール協議会との連携体制の強化・円滑化を担う指導的立場の救命士の計画的な養成を行う必要がある。</p>																															

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 3,184千円	最終予算額 3,236千円	不用額 52千円	執行率 98.3 % (参考)当初予算額 3,499千円	部	消防本部
	項	01 消防費						総務課
	目	01 常備消防費						
	事	03 消防訓練・研修業務						
	細事	02 消防学校等研修派遣業務						
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源					
目的	より専門的な講習会、研修等に参加し、最新の技術や知識を学び職員の資質向上を図るとともに、消防活動上必要な各種資格を取得し能力の向上に努め、複雑多様化・高度化する消防業務に対応する。							
主要な事務・事業の概要	消防大学校、京都府立消防学校及び京都府消防長会等が主催する各専科課程や各種研修会へ計画的かつ積極的に参加し、消防職員として複雑多様化する災害への対応に必要とされる知識・技能の向上を図った。 ○旅費 1,219千円 消防大学校及び府立消防学校への入校、各種専科教育課程・研修会、緊急消防援助隊等各種消防救助訓練 ○消防学校専科等研修負担金 1,546千円 ・消防大学校：火災調査科（1人）、上級幹部科（1人） ・府立消防学校：初任教育（3人）、火災調査科（1人）、警防科（1人）、危険物科（1人）、予防査察科（1人）、救急科（1人）、救助科（2人）、特殊災害科（1人）、中級幹部科（1人） ○各種講習会受講負担金 231千円 2級陸上特殊無線技士養成講習（1人）、小型移動式クレーン技能講習（1人）、玉掛け技能講習（1人）、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者（1人）、潜水技術研修（1人）、予防技術者検定（2人）			○大型自動車運転免許取得補助金（1人） 80千円 ○その他研修経費（バス運転委託料、有料道路通行料等） 108千円				
				成果・課題	○各種の状況を想定した災害・救助救急訓練、研修等に参加し、最新の専門的な技能・高度な知識を学ぶことで、複雑化する災害に対応する準備ができた。 ○各種専科教育等の受講者が持ち帰った技術、知識については、研修会等を通じて職員へフィードバックを行うことができた。 ○災害の態様も年々多様化していることから、必要となる知識・技能を習得し、対応していく必要がある。			

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部						
	項	01 消防費							4,335千円	4,429千円	94千円	(参考)当初予算額	課	総務課
	目	01 常備消防費												
	事	04 予防・警防等業務												
	細事	01 予防・警防等業務												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実													
目的	事業所への防火管理指導や高齢者宅等への防火訪問、防火チラシの配布を行い火災予防啓発を図る。また、消防活動を支える資機材や装備の整備、更新により活動時の安全を確保する。		主な財源	手数料	消防手数料		962千円							
				府補	きょうと地域連携交付金（常備消防備品整備事業）		700千円							
				諸収入	防火管理者資格取得講習料		177千円							
主要な事務・事業の概要	防火ポスター図画の募集、防火啓発チラシの作成配布及び防火座談会の開催などの予防啓発活動に加え、高齢者世帯への住宅用火災警報器設置普及に積極的に取り組んだ。また、計画的に消火活動用資機材及び救助用資機材の点検更新を行い、消防活動全般における安全・確実な活動に配慮した。													
	○報償費	8千円		○委託料	486千円									
	・防火ポスター表彰記念品等（入選10作品）小学4年生対象			・京丹後市ヘリポート（弥栄町溝谷地内）草刈業務										
○消耗品費	997千円		○賃借料	30千円										
・防火管理者資格取得講習会テキスト等			・救助訓練用自動車借上											
・各種防火啓発広報物品、救助活動用資機材（防塵マスク等）			○原材料費	19千円										
・感染対策用防護資機材等			・訓練用資材等											
○印刷製本費	199千円		○備品購入費	1,650千円										
・秋季、春季火災予防啓発チラシ 計41,500枚			・予防活動関係備品等（デジタルカメラ等）											
・火災予防運動防火ポスター（小学4年生の特選図画B2版）900枚			・警防活動用資機材等（消防用ホース、バスケット担架等）											
○修繕料	450千円		○その他経費	35千円										
・各種救助資機材、水難救助用資機材、消防活動資機材等			・通信運搬費											
○手数料	461千円		成果・課題	○令和2年度からの違反対象物公表制度の運用開始を前に、積極的な立入検査を実施し、消防用設備の維持管理等について適切に指導を行った。										
・ポンプ点検、高圧ガス容器再検査、産業廃棄物処理等				○住宅用火災警報器の普及率は上昇しているが、建物火災のうち約7割が住宅火災であることから、引き続き火災予防啓発と住宅用火災警報器の普及啓発に積極的に取り組む必要がある。										
			○車両整備に伴い更新された一部の積載資機材を除き、運用中の資機材は老朽化しているものが多く、適切な維持管理に加え、計画的な更新整備を図る必要がある。											

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部								
	項	01 消防費							6,088千円	6,226千円	138千円	97.7%				
	目	01 常備消防費											(参考)当初予算額			
	事	05 救急業務												6,222千円	課	総務課
	細事	01 救急活動業務														
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実															
目的	救急資機材の整備や適切な管理の実施、また、関係機関との連携による救急活動の事後検証の実施などにより、安全で的確な救急活動の実施を図り救命率向上に努める。	主な財源														
主要な事務・事業の概要	安全かつ的確な救急業務に対応するため、救急資機材の充実と必要な保守管理に努めた。また、救命講習でのWEB（e-ラーニング）活用など、応急手当の普及啓発活動の推進に努めた。															
	年次		出動救急件数	搬送人員												
	令和元年		2,455件(前年比 112件減)	2,321人(前年比 116人減)												
	平成30年		2,567件(前年比 0件)	2,437人(前年比 22人増)												
	平成29年	2,567件(前年比 48件増)	2,415人(前年比 45人増)													
○旅費	102千円	○丹後メディカルコントロール協議会負担金 120千円														
・救急管外搬送		・救急業務高度化推進のため、北丹医師会、与謝医師会、救急指定4病院、丹後保健所及び丹後広域振興局等と連携し2次医療圏内で協議会を組織														
○消耗品費	2,797千円	○その他経費 231千円														
・ディスポグローブ、医療用酸素、マスク等		・消防業務賠償責任保険料 107千円														
○修繕費（救急訓練用人形等）	101千円	・クリーニング手数料（救急毛布等） 7千円														
○高圧ガス容器検査手数料	64千円	・印刷製本（救急搬送書等） 64千円														
○産業廃棄物処理手数料	130千円	・医療材料費（アドレナリン、速乾手指消毒剤等） 53千円														
・救急活動で使用したグローブ、ガーゼ等		成果・課題	○京丹後市総合防災訓練に併せて応急手当などの知識と技能の習得のための救命講習会を実施するなどして、前年に比べ救命講習の総受講者数が約400人増加し、多くのバイスタンダーを育成することができた。引き続き受講機会の確保と講習時間短縮につながる訓練用資機材の充実を図り、バイスタンダーの育成に積極的に取り組む必要がある。													
○京都市救命指示センター委託料	1,459千円		○救マーク認定制度（施設関係者による応急手当が実施可能な事業所）の普及に努めている。新規の認定事業所は増加しているが、継続を断念する事業所もあるため、持続可能な対策が必要である。													
・24時間体制で医師1人常駐し、救急救命士の指示要請に対応																
○高度救急医療器材定期点検保守委託料	1,084千円															
・除細動器、患者監視装置等の医療器材を定期的に点検整備																

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部								
	項	01 消防費							52,302千円	52,466千円	164千円	99.6 %				
	目	01 常備消防費											(参考)当初予算額			
	事	06 通信指令業務												59,414千円	課	総務課
	細事	01 通信指令業務														
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実															
目的	市民の安心・安全な生活に寄与するため、24時間体制で火災・救急等の緊急要請を受信・処理する通信指令システムを適正に管理・運用する。		主な財源													
主要な事務・事業の概要	24時間体制で市民から緊急通報を受け付け、高機能消防指令システムを活用した災害発生地点の特定、消防車両への出動指令、活動統制を行うとともに、市防災行政無線による災害広報対応を行った。 また、指令管制の中核となる高機能消防指令システムの不断の運用を図るため、保守点検及び予防交換を行うとともに、OAシステムOSのサポート終了に伴うセキュリティリスク発生を防止するため、システム改修及び機器更新を行った。															
	○報償費	44千円		○委託料	29,723千円											
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災用音声合成装置吹込謝金（毎月1回） 			<ul style="list-style-type: none"> ・消防OAシステムOS更新対応システム改修 16,416千円 ・消防緊急通信指令施設保守点検業務委託料（指令台、無線）11,883千円 ・緊急通報用電話発信地表示システム委託料等 1,267千円 ・自家用電気工作物保安管理委託料等 157千円 												
	○消耗品費（プリンタートナー、ヘッドセット等）	522千円		○備品購入費	7,862千円											
	○光熱水費（丹後地域公民館無線基地局電気代）	85千円	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用パソコンOS更新（66台） 													
○修繕料	6,042千円	○負担金、補助及び交付金	205千円													
<ul style="list-style-type: none"> ・高機能消防指令システム消耗品等予防交換 4,902千円 ・システム構成機器故障修繕等 1,140千円 		<ul style="list-style-type: none"> ・京都府西山中継局舎電気料金負担金 150千円 ・119番通報多言語対応負担金 55千円 														
○通信運搬費（NTT専用回線料）	7,034千円	○機器等のメンテナンスを適切に行い、緊急通報に際して支障をきたすことなく対応を行うことができた。 ○外国人からの119番通報等に迅速かつ的確に対応するため、電話通訳センターの三者間同時通訳による、119番通報等の多言語対応を開始した。 ○24時間、不断の運用が求められる設備であり、連続運用による構成機器等の経年劣化による故障、修繕、部品交換等は避けられないことから、システムダウン等重大な支障をきたすことのないよう、計画的かつ効果的な適正管理が必要である。														
<ul style="list-style-type: none"> ・指令回線（署所音声指令用、指令地図伝送用）、119番転送回線 																
○手数料（消防無線基地局登録検査）	785千円															

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 864千円	最終予算額 864千円	不用額 0千円	執行率	部 消防本部
	項	01 消防費				100.0 %	
	目	01 常備消防費				(参考)当初予算額	課 総務課
	事	06 通信指令業務				864千円	
	細事	01 通信指令業務（繰越）	主な財源				
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実						
目的	市民の安心・安全な生活に寄与するため、24時間体制で火災・救急等の緊急要請を受信・処理する通信指令システムを適正に管理・運用する。						
主要な事務・事業の概要	指令管制の中核となる高機能消防指令システムの不断の運用を図るため、改元に伴うシステム改修を行った。 ○委託料 864千円 ・高機能消防指令システム新元号対応システム改修委託業務（平成31年4月30日 業務完了）			成果・課題			

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部								
	項	01 消防費							20,257千円	20,707千円	450千円	97.8 %				
	目	01 常備消防費											(参考)当初予算額			
	事	07 庁舎等維持管理事業												19,564千円	課	総務課
	細事	01 庁舎等維持管理事業														
		諸収入	市有自動車損害共済金	132千円												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源													
目的	災害時等に活動拠点となる消防庁舎及び災害対応する消防車両の保守点検等維持管理を行う。															
主要な事務・事業の概要	<p>消防庁舎は火災・救急・救助活動に備える拠点施設であり、職員が適切に活動できる職場環境の維持に努めるため、空調設備の更新及び受変電設備の高圧ケーブル取替工事を行った。</p> <p>また、各消防車両は災害の最前線で運用する車両であることから、不測の災害発生に対し万全の状態での出動し、市民の安心安全な生活及び職員の安全確実な活動を支えるため、整備・点検を実施した。</p> <p>消防庁舎 4署所（峰山消防署、網野分署、久美浜分署、竹野川分遣所） 消防車両 20台（救急車5台、ポンプ車4台、指揮支援車1台、救助工作車1台、指令・広報車5台、資機材搬送車1台、事務連絡車2台、軽トラック1台）</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○公用車車検経費（10台分、自動車重量税） 327千円 ○自動車損害保険料 444千円 ○保守点検委託料 468千円 通信指令室等空調設備、キュービクル保安全管理、消防用設備等保守点検等 ○清掃用具借上料（モップ、マット等4署所分） 163千円 ○工事請負費 974千円 空調設備更新工事（消防本部団長会議室、竹野川分遣所待機室（食堂）） ○備品購入費（冷蔵庫1台（網野分署）） 97千円 ○その他経費（自動車登録手数料、ごみ持込処理手数料等） 224千円 												
	<ul style="list-style-type: none"> ○消耗品費（トイレトーパー、蛍光管、洗剤等） 399千円 ○燃料費 5,136千円 <ul style="list-style-type: none"> ・施設関係燃料（ガス、灯油代） 1,193千円 ・車両関係燃料（ガソリン、軽油代） 3,943千円 ○光熱水費（消防本部ほか3署所の電気料金、上下水道代） 7,157千円 ○修繕費（維持補修費・その他） 4,868千円 <ul style="list-style-type: none"> ・施設関係 1,010千円 <ul style="list-style-type: none"> 受変電設備高圧ケーブル取替、下水配管改修、 庁舎等照明器具取替等 ・車両関係点検・整備（20台） 3,858千円 <ul style="list-style-type: none"> 定期点検（3か月（大型のみ）、6、12か月）、修理等 			成果・課題	<p>○消防庁舎の適切な維持管理ができた。</p> <p>○老朽化の目立つ広報車等も含め緊急走行を伴う消防車両について、定期的かつ計画的なメンテナンスを実施することで、火災・救急・救助等の災害発生に際し、迅速な出動、的確な活動を行うことができた。</p> <p>○消防庁舎は築30年経過し、各署所とも施設及び設備の経年劣化が見られることから、今後も適切な状態に維持管理するため、計画的な修繕等が必要である。</p>											

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部	
	項	01 消防費							4,204千円
	目	02 非常備消防費				(参考)当初予算額			
	事	01 団員報酬・公務災害補償費等	3,835千円	課	総務課				
	細事	02 公務災害補償費等	諸収入	消防団員公務災害補償金		683千円			
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源						
目的	消防団員等が公務上の災害を受けた場合に損害賠償や災害補償を行う。								
主要な事務・事業の概要	<p>公務災害補償制度（消防団員等公務災害補償等共済基金）や住民参加の防火訓練等における災害補償制度（日本消防協会）を活用し、消防団員等が火災や訓練等で災害を受けた場合の損害賠償や災害補償の掛金を支出した。</p>								
	<p>○災害補償費 669千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務災害補償費 消防団員12人（訓練時12人） <p>○負担金、補助及び交付金 3,535千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員等公務災害補償掛金 3,480千円 <ul style="list-style-type: none"> 団員 1,730人 × 1,900円 (平成30年10月1日現在の条例定数) 消防・水防作業 55,054人 × 3.5円 (平成27年国勢調査人口) ・災害補償掛金 55千円 <ul style="list-style-type: none"> 55,054人 × 1円 ※千円未満切捨て (平成27年国勢調査人口) 			成果・課題	<p>消防団員等の公務災害及び防災訓練等に参加した住民の不慮の事故に対応するための災害補償掛金を支出するとともに、訓練等の活動に参加した団員の不慮の事故に対応することができた。</p>				

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 37,214千円	最終予算額 37,214千円	不用額 0千円	執行率	部 消防本部
	項	01 消防費				100.0 %	
	目	02 非常備消防費				(参考)当初予算額	課 総務課
	事	02 団員退職報償金				33,216千円	
	細事	01 団員退職報償金	諸収入 消防団員退職報償金		3,998千円		
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源				
目的	5年以上在職して退職した消防団員に対し、その団員の在職年数や階級に応じて支給する。また、その支給のための掛金を基金に支払う。						
主要な事務・事業の概要	消防団員の多年の労苦に報いるため、非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例に基づき、その団員の在職年数や階級に応じて退職報償金を支給した。 また、その支給のため、消防団員等公務災害補償等共済基金に掛金を支払った。		○報償費 3,998千円 ・退職報償金（11人分）				
	○負担金、補助及び交付金 33,216千円 ・消防団員退職報償金掛金 1,730人 × 19,200円 （平成30年10月1日現在の条例定数）						
			成果・課題	条例に基づき、退職した消防団員に退職報償金を支給した。			

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部						
	項	01 消防費							112,445千円	113,170千円	725千円	(参考)当初予算額	課	総務課
	目	02 非常備消防費												
	事	03 消防団活動運営事業												
	細事	01 消防団活動運営事業												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源	国補	消防団設備整備費補助金(1/3)	512千円								
				府補	きょうと地域連携交付金(消防団備品整備事業)	937千円								
目的	火災、地震、風水害等において、地域の安全の確保と被害拡大を防止するため、消防団員の資質向上や技能習得のために必要な訓練及び活動等のほか、消防車両等を維持管理する。			諸収入	市有自動車損害共済金	252千円								
主要な事務・事業の概要	<p>消防団の運営及び活動に対する経費で、分団・部等の運営費及び出動手当のほか、消防車両及び消防車庫の維持管理経費、消防操法大会経費等を支出した。</p> <p>○消防団運営活動謝金 52,516千円 (本部、分団、部、指導員、ラッパ鼓隊、女性消防隊、支援団員)</p> <p>○消防団操法大会経費 5,289千円 ・謝金(本部、分団、指導員、ラッパ鼓隊、女性消防隊) 4,997千円 ・会場設営委託業務 292千円</p> <p>○消防団員定例表彰等に係る表彰状・徽章等 200千円</p> <p>○消防団出動手当・訓練手当等 26,348千円</p> <p>○消耗品費(活動服、ヘルメット、編上げ靴、手袋等) 6,152千円</p> <p>○消防車両維持管理経費(燃料費、修繕料、保険料等86台分) 14,633千円</p> <p>○消防車庫維持管理経費(電気代、火災保険料等91施設分) 2,517千円</p> <p>○ポンプ点検(ポンプ自動車36台、小型ポンプ44台) 415千円</p> <p>○消防学校入校、京都府消防大会参加等バス借上料 334千円</p> <p>○京都府消防協会京丹後市支部負担金 255千円</p> <p>○その他費用(消火栓ボックスの処分、消火器処分手数料等) 487千円</p>			<p>○備品購入費 3,299千円 ・消防用ホース(75本) 2,100千円 ・消防用吸管(2本) 149千円 ・自動体外式除細動器(AED 4式) 1,050千円</p> <p>【参考】 ○第9回京丹後市消防操法競技大会の概要 ・開催日 令和元年8月4日(日) ・開催場所 いさなご小学校グラウンド(峰山町安) ・出場隊数 24隊 (ホッパ車操法の部、小型ホッパ操法の部 各方面隊から2隊ずつ) ・大会結果 ホッパ車操法の部 優勝:大宮第2分団第1部(奥大野) 小型ホッパ操法の部 優勝:久美浜第3分団第3部(丸山)</p>										
	成果・課題	<p>○消防団の運営に対する支援や施設設備の適切な維持管理ができた。 ○京丹後市消防操法大会の実施により、団員の規律ある行動や消防技術の向上と士気の向上を図ることができた。</p>												

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 17,528千円	最終予算額 17,534千円	不用額 6千円	執行率	部 消防本部															
	項	01 消防費				99.9 %																
	目	02 非常備消防費				(参考)当初予算額																
	事	04 消防設備維持管理事業				17,534千円																
	細事	01 消防設備維持管理事業																				
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源																			
目的	消火活動に必要な消火栓の維持管理費用として、消火栓の設置数に応じて水道事業会計へ繰り出す。																					
主要な事務・事業の概要	○繰出金 17,528千円 (水道事業会計5,400円 × 3,246基)																					
	<p>【消火栓管理基数内訳】</p> <p>(単位：基)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>水道会計管理基数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山町</td> <td>458</td> </tr> <tr> <td>大宮町</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td>網野町</td> <td>606</td> </tr> <tr> <td>丹後町</td> <td>379</td> </tr> <tr> <td>弥栄町</td> <td>353</td> </tr> <tr> <td>久美浜町</td> <td>951</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,246</td> </tr> </tbody> </table>		区分	水道会計管理基数	峰山町	458	大宮町	499	網野町	606	丹後町	379	弥栄町	353	久美浜町	951	合計	3,246				
区分	水道会計管理基数																					
峰山町	458																					
大宮町	499																					
網野町	606																					
丹後町	379																					
弥栄町	353																					
久美浜町	951																					
合計	3,246																					
				成果・課題																		

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部				
	項	01 消防費							16,309千円	16,310千円	1千円	99.9 %
	目	03 消防施設費										(参考)当初予算額
	事	01 常備消防施設等整備事業										25,566千円
	課	総務課										
細事	01 常備消防施設等整備事業	国補	防衛施設周辺対策事業補助金 (7.5/10)	12,231千円								
		市債	消防防災施設整備事業債 (緊急防災・減災事業債)	4,000千円								
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源									
目的	飛行制限区域内への進入に伴う米軍TPY-2レーダーの停波要請手続きを要しない場所に救急用ヘリポートの整備を行い、地域住民の安心・安全の確保を図る。											
主要な事務・事業の概要	<p>旧宇川中学校グラウンドの一部を通年利用可能な救急用ヘリポートとして整備を行った。(救急用場外離着陸場(ヘリポート)整備)</p> <p>○委託料 3,294千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事設計委託料 2,268千円 ・測量委託料 1,026千円 <p>○工事請負費 13,015千円</p> <p>整備場所：旧宇川中学校(丹後町上野) アスファルト舗装面積：約971㎡ 令和2年3月完成、4月運用開始</p>											
	成果・課題	<p>停波要請不要の救急用ヘリポートとして整備を行い、地域住民の安心・安全に寄与することができた。</p>										

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部						
	項	01 消防費							21,246千円	21,347千円	101千円	(参考)当初予算額	課	総務課
	目	03 消防施設費												
	事	02 非常備消防施設等整備事業												
	細事	01 消防車両等整備事業												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源	国補	消防団設備整備費補助金（1/3）	45千円								
目的	火災をはじめ風水害や地震などの災害発生時に迅速かつ的確に対処するため、年数が経過し老朽化した消防車両等を更新する。			府補	地域防災力総合支援事業補助金（1/2）	7,699千円								
主要な事務・事業の概要			市債	消防自動車整備事業債（緊急防災・減災事業債）	12,800千円									
	<p>災害時などの救助活動に対応するため、小型動力ポンプ付積載車について、チェーンソー、布担架及び救急セットなどの救助資機材を装備した多機能型消防車両への更新を行った。また、総務省消防庁から消防ポンプ自動車の無償貸付を受けた。</p> <p>○需用費 428千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 総務省消防庁無償貸付ポンプ自動車の無線機格納箱取付工事等（弥栄第3分団第1部（黒部）） <p>○役務費 67千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車登録抹消手数料 11千円 自動車リサイクル料 16千円 自動車損害保険料 40千円 <p>○備品購入費 20,673千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 多機能型小型動力ポンプ付積載車 2台 20,537千円（網野第2分団第3部（元町）、網野第3分団第3部（高橋）） チェーンソー 2台 136千円 <p>○公課費 78千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車重量税 		成果・課題	令和2年3月31日現在、市は消防車両86台を所有しており、そのうち、購入後20年以上経過しているものが24台あることから、今後も計画的な更新を図る必要がある。										

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部						
	項	01 消防費							1,070千円	1,087千円	17千円	(参考)当初予算額	課	総務課
	目	03 消防施設費												
	事	02 非常備消防施設等整備事業												
	細事	02 消防車庫等整備事業												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源	市債 消防防災施設整備事業債（合併特例債） 900千円										
目的	消防団組織見直しにより、小型動力ポンプ付積載車を格納配備する消防車庫を新たに整備するための工事設計を行う。													
主要な事務・事業の概要	<p>消防団組織見直しにより、網野方面隊第2分団第1部に配備された車両を格納する消防車庫を整備するための工事設計を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備場所：網野町網野（北大路） ※鉄骨平屋建て 約44㎡ 													
	○手数料	25千円												
	<ul style="list-style-type: none"> 建築確認手数料 													
○委託料	1,045千円													
	<ul style="list-style-type: none"> 工事設計委託料 													
				成果・課題	<p>○消防車両を適切に配置するための車庫整備を進めることができた。</p> <p>○老朽化の進む消防車庫についても、防災拠点の確保の観点から計画的な建て替えに取り組む必要がある。</p>									

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部						
	項	01 消防費							3,606千円	10,381千円	6,775千円	(参考)当初予算額	課	総務課
	目	03 消防施設費												
	事	04 消火栓整備事業												
	細事	01 消火栓設置事業												
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源	市債 消防防災施設整備事業債（緊急防災・減災事業債） 3,600千円										
目的	火災発生時に最も身近で有効な消火栓の設置を進めるため、地区要望及び地域の水利状況等を考慮し、消防水利の基準に照らし合わせ計画的に整備を行い、地域の防災力を高める。													
主要な事務・事業の概要	○工事請負費 3,606千円		<p>【消火栓工事施工概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮：地上式1基（改修） ・丹後：地上式2基（改修） <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">参考</td> <td>繰越明許費を除いた最終予算額</td> <td>3,606千円</td> </tr> <tr> <td>実質的な執行率</td> <td>100.0%</td> </tr> </table> <p>■令和2年度への繰越事業 6,775千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓設置事業（令和2年8月完成予定） 峰山1基、大宮5基、網野1基、弥栄2基、久美浜7基 						参考	繰越明許費を除いた最終予算額	3,606千円	実質的な執行率	100.0%	
	参考	繰越明許費を除いた最終予算額								3,606千円				
実質的な執行率		100.0%												
			成果・課題	地区要望に基づく老朽化した消火栓の更新工事及び水道管の布設替えに伴う老朽化した消火栓の更新工事を実施することにより、地域の消防力を高めることができた。										

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	消防本部
	項	01 消防費	516千円	520千円	4千円	99.2 %		
	目	03 消防施設費				(参考)当初予算額	課	総務課
	事	04 消火栓整備事業				520千円		
	細事	01 消火栓設置事業（繰越）				市債	消防防災施設整備事業債（緊急防災・減災事業債）	
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源					
目的	火災発生時に最も身近で有効な消火栓の設置を進めるため、地区要望及び地域の水利状況等を考慮し、消防水利の基準に照らし合わせ計画的に整備を行い、地域の防災力を高める。							
主要な事務・事業の概要	○工事請負費 516千円 ・大宮町善王寺地区の下水道管渠布設に伴う、老朽化した地下式消火栓（3基）の更新工事							
	成果・課題	下水道工事に併せ、老朽化した消火栓の更新工事を実施することにより、地域の消防力を高めることができた。						

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 2,786千円	最終予算額 2,787千円	不用額 1千円	執行率 99.9 %	部 消防本部																
	項	01 消防費																					
	目	03 消防施設費				(参考)当初予算額 3,000千円	課 総務課																
	事	04 消火栓整備事業																					
	細事	02 消火栓ボックス等整備事業	府補	きょうと地域連携交付金（消火栓ボックス等整備事業）	1,182千円																		
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源																				
目的	消火栓の新設、更新及び地区要望等に基づき、老朽化した消火栓用ホース格納箱や消火栓備品を更新し、地域の防災力を高める。																						
主要な事務・事業の概要	<p>消火栓は初期消火に有効な設備で、迅速かつ効果的に使用するためには消火栓に付属する備品の維持管理が必要である。そのため、区からの要望等を踏まえ、老朽化に伴う消火栓備品の更新を行った。</p> <p>○備品購入費 2,786千円</p> <p>【消火栓備品】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋外型ホース格納箱（スチール製）</td> <td>70台</td> </tr> <tr> <td>屋外型ホース格納箱用架台（スチール製）</td> <td>70台</td> </tr> <tr> <td>消火栓用ホース</td> <td>176本</td> </tr> <tr> <td>管そう（ノズルは噴霧タイプでない）</td> <td>30本</td> </tr> <tr> <td>消火栓開閉ハンドル（地上式用）</td> <td>15本</td> </tr> <tr> <td>消火栓開閉ハンドル（地下式用）</td> <td>15本</td> </tr> <tr> <td>単口式スタンドタイプ（地下式用）</td> <td>30本</td> </tr> </tbody> </table>							品名	数量	屋外型ホース格納箱（スチール製）	70台	屋外型ホース格納箱用架台（スチール製）	70台	消火栓用ホース	176本	管そう（ノズルは噴霧タイプでない）	30本	消火栓開閉ハンドル（地上式用）	15本	消火栓開閉ハンドル（地下式用）	15本	単口式スタンドタイプ（地下式用）	30本
	品名	数量																					
	屋外型ホース格納箱（スチール製）	70台																					
	屋外型ホース格納箱用架台（スチール製）	70台																					
	消火栓用ホース	176本																					
	管そう（ノズルは噴霧タイプでない）	30本																					
	消火栓開閉ハンドル（地上式用）	15本																					
	消火栓開閉ハンドル（地下式用）	15本																					
単口式スタンドタイプ（地下式用）	30本																						
成果・課題	老朽化した消火栓ボックス等の資機材の整備を行い、地域の防災力を高めることができた。																						

予算科目	款	09 消防費	本年度決算額 2,138千円	最終予算額 20,237千円	不用額 18,099千円	執行率 10.5 % (参考)当初予算額 13,532千円	部 消防本部
	項	01 消防費					
	目	03 消防施設費					
	事	50 消防施設一般経費					
	細事	01 消防施設一般経費					
基本計画	10 地域ぐるみによる消防・救急・防災体制の充実		主な財源 諸収入 市有建物損害共済金 34千円				
目的	消防活動を円滑に行うため、消防資機材や車庫、消防水利等の維持管理を行う。						
主要な事務・事業の概要	○需用費 1,445千円		■令和2年度への繰越事業 18,057千円				
	・小西川可動堰電気料 63千円		○防火水槽撤去事業（令和2年8月完成予定）				
	・消防車庫修繕（11か所） 1,041千円		・工事監理業務委託料 1,057千円				
	・防火水槽等修繕（4か所） 341千円		・工事請負費 17,000千円				
			※峰山町長岡地内				
○役務費 2千円							
・収入印紙（簡易デジタル無線局再登録申請）							
○委託料 542千円							
・防火水槽撤去工事設計業務委託（峰山町長岡地内）							
○使用料及び賃借料 149千円							
・簡易デジタル無線電波利用料							
参考	繰越明許費を除いた最終予算額	2,180千円	成果・課題	消防資機材や車庫、消防水利等の適切な維持管理を行った。			
	実質的な執行率	98.1%					